



# 実際に 土の魅力を ふれて、遊んで ダイナミックに体感

「土・どろんこ館」の屋外広場にある「どろん田」で遊ぶ子どもたち（限定日のみ開催）。INAXのタイトルの原料でもある蛭目粘土を使用。きめが細かくクリーミーな感触で、どろの心地よさや楽しさを全身で体感できる

report

土がテーマの体験型施設——土・どろんこ館——



「光どろだんごづくり」に没頭する小学生たち。どろだんごを専用の道具で真球になるまで削り、表面に色泥を手で薄く重ね、ピンの口縁で根気よく磨き上げる。様々な産地の土を使った「土のパステルづくり」も実施（団体のみ）

粒子が細かい粘土質の「光どろだんご」は強度が高く、落としても割れない。光る理由は、表面を押さえつけて磨くと粘土の粒子が一定方向にそろい、光が反射しやすくなるから。色泥は粘土をベースに鉱物による顔料で着色したもの



やきものが好きでINAXに入社した館長の辻孝二郎氏。土への造詣は人一倍深い。「夢は“光どろだんごづくり”の世界大会を開くこと！」

## 土の可能性を様々な角度から伝える

「ぐにゅぐにゅして気持ちいい!」。手足にべたべたとどろを塗ったり寝そべったり、ただひたすら土と戯れる子どもたち。ここでは遊びの道具は一切いらず、からだひとつで思う存分どろ遊びが楽しめる。

粘土質のどろに水を加え、やわらかくした「どろ田」と呼ばれる遊び場を夏休みに無料開放しているのは、愛知県常滑市にある『土・どろんこ館』。体験を重視した土とのふれあいにより、土の魅力や可能性を発信する同館は、タイルや衛生陶器を製造・販売する(株)INAX(現(株)LIXIL)が2006年にオープンした施設で、土からやきものまでをテーマに博物館や資料館などを公開する「INAXライブミュージアム」内にある。

「都市化された現代では、土にふれる機会が少なくなりました。土は本来、どこにでもある身近な素材で誰もが容易に扱える。私たちの暮らしの中にも土から育まれたものがたくさんあります。この施設での体験が、忘れかけた土の大切さを見直すきっかけになれば」と館長の辻孝二郎氏。

「どろ田」が開放される時間になると、待ち構えていた子どもたちがいっせいに中へ駆け込む。なめらかなどろの肌さわりが理屈ぬきに気持ちいいのは、子どもの笑顔を見ればわかる。そばで見守る大人の頬も自然とゆるみ、思わずどろに手をのばす親も。「どろ遊びが楽しい、心地いいと感じるのは人間の本能。誰もが記憶している原風景です」。

子どもには新鮮で、大人には懐かしいどろの感触。その魅力をもつくりを通して楽しめるのが、

### INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」 問い合わせ先

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130  
TEL:0569-34-8282 FAX:0569-34-8283  
<http://inax.lixil.co.jp/clayworks/>



体験教室などに利用される多目的ホール。手前左の網代のような模様の土壁は、左官職人の久住有生氏によるもの。地元の「はがね土」を使い、立体的な壁を高度な左官の技術で見事に仕上げている

地域住民が手づくりした日干し煉瓦を内装にあしらひ、「地域と一体になった土のものづくり」を実践。約220名が6日間かけて3000個をつくり上げた



展示室「百土箱の部屋」には、様々な視点から捉えた土の世界が引き出しの中に表示されている。やきものの取っ手が印象的



建物に使用した土はすべて常滑産。版築(板枠の間に土を詰めて上から突き固める工法)で仕上げた外壁には320tの土を使用し、厚みは最大50cm。設計は建築家の白置拓人が担当



オープン当時から開催している体験教室「光るどろだんごづくり」だ。

使用するのはやきものの用の粘土。それをまず真球に丸め、色泥で着色して磨き上げる。最初はしめり気のある土が、徐々にツルツルとした手ざわりになり、やがて陶器のように光を反射して色艶を増す。そのプロセスでは、どろだんごが美しく変貌するさまに胸が躍り、手をかける喜びや土への愛しさを感ずると同時に、土の多様な性質についても学ぶことになる。どろだんごが光るといふ意外性、一つひとつの表情が違うオリジナル性、そして大人にとっても童心にかえる体験が多くの人々の心をとらえ、体験者はこれまでのべ7万人を超えている。出来ばえを競う全国大会も毎年開かれ、「土・どろんこ館」以外でも教室を開くこともあるが、「ここで体験すると土の心地よさをより実感できる」と館長はいう。

その訳は同館の建物にある。外観から内装まで常滑の土をふんだんに使い、左官職人による伝統工法で手間をかけて築き上げられた空間は、土を大切に扱うつくり手の心と素材の呼吸を肌で感じる。そんな空気が相乗的な効果を生み、ものづくりの楽しさや充実感を高めているようだ。

内装の壁の一部にあしらった日干し煉瓦は、INAXの呼びかけで集まった地域住民220名が一枚一枚手づくりしたもので、このプロジェクトには「地域に開かれた施設をつくり、まさに還元したい」という思いが込められている。地元のと歩んできたからこそできた『土・どろんこ館』。その原点には、土への果てしない愛着とものづくりの精神が息づいている。

(文責・CEL編集室)

CEL